

3

幼児を取り囲む家庭環境

テレビとのかかわり

子どもの生活時間において、テレビとのかかわりは大きな影響を及ぼしている。その実態を前回と比較しながら見ていきたい。

テレビ視聴への興味・関心・頻度

(図1 - 26 ~ 28)

図1 - 26は、テレビ視聴への興味・関心についてたずねた結果を前回と比較したものである。5年前も今現在も数値の変化はほとんどなく、「見たい番組が大体決まっている」子どもが約8割を占めている。

さらにテレビへの興味・関心について、今回の全体数値を年齢別に見たものが図1 - 27である。1歳児の段階で、すでに「内容をいくぶん理解しはじめている」子どもが3割お

り、「見たい番組が大体決まっている」子どもが半数を占めている。「見たい番組が大体決まっている」割合は、年齢が上がるにつれて増加しており、6歳児ではほとんどの子ども(96.3%)が「見たい番組が大体決まっている」と回答している。

図1 - 28は、テレビ視聴の頻度についてたずねた結果の前回との比較である。テレビ視聴に対する興味・関心と同様に、前回と比較して数値に大きな変化は見られない。96~97%が「ほとんど毎日」テレビを視聴している状況である。年齢別に見ても、この傾向に変わりはなく、1~6歳児までほとんどの年齢で9割以上が「ほとんど毎日」テレビを視聴している。

図1-26 テレビ視聴への関心度(95年との比較)

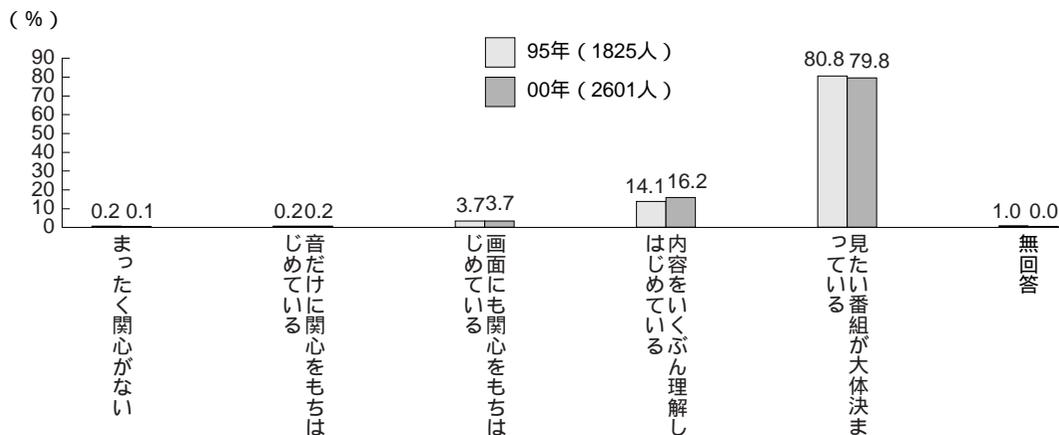


図1-27 テレビ視聴への関心度×年齢(全体)

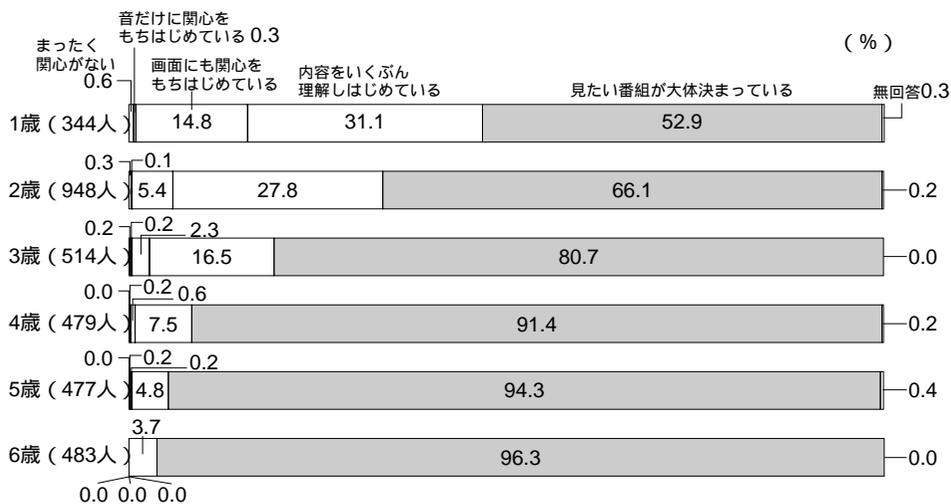
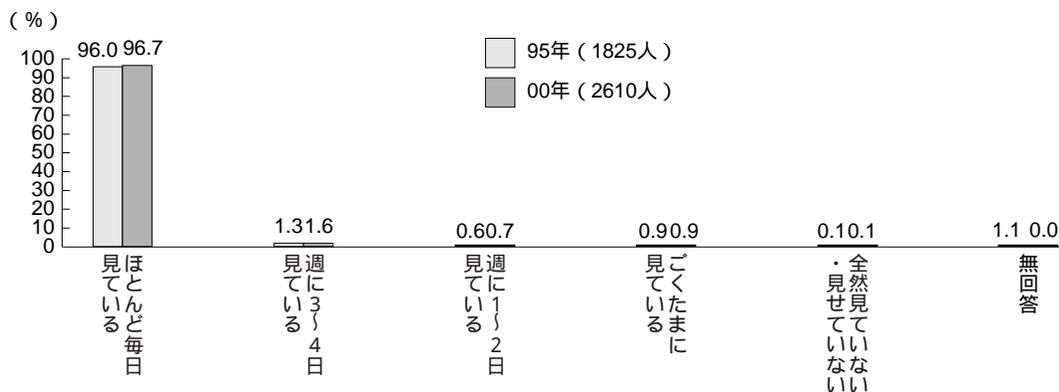


図1-28 テレビ視聴頻度(95年との比較)



1日の平均視聴時間・時間帯

(表1-6、図1-29)

では、子どもは1日に何時間くらいテレビを視聴しているのだろうか。表1-6は、1日当たりの平均視聴時間を年齢別に前回と比較したものである。視聴時間においても、あまり前回からの変化は見られない。前回と比較して、最もテレビ視聴時間が増えたのは6歳児で、2時間58分(20分増加)であった。前回と同様に、年齢ごとの差では、1~3歳児の視聴時間が4~6歳児に比べて長い。これは、幼稚園入園とともにテレビを視聴する時間が減少するためと思われる。

図1-29は、1日のテレビ視聴時間帯をたずねた結果の前回との比較である。1日のうち、朝と、夕方から夜にかけて視聴率の2つの山が見られる。前回と比較すると、朝のピーク時間は若干早まり、夕方から夜にかけては17時~19時半頃に集中していた山が崩れ、16時~20時頃まで広範囲になっている。

朝の視聴時間帯の変化は、起床時間の多少の早まりと連動しており、また夕方から夜の視聴時間の広がり、園からの帰宅時間の変化や幼児(子ども)番組の放送時間に影響していると考えられる。

就園状況別視聴時間帯(図1-30)

図1-30は、今回調査の全体数値についてテレビ視聴時間帯を子どもの就園状況別に見たものである。

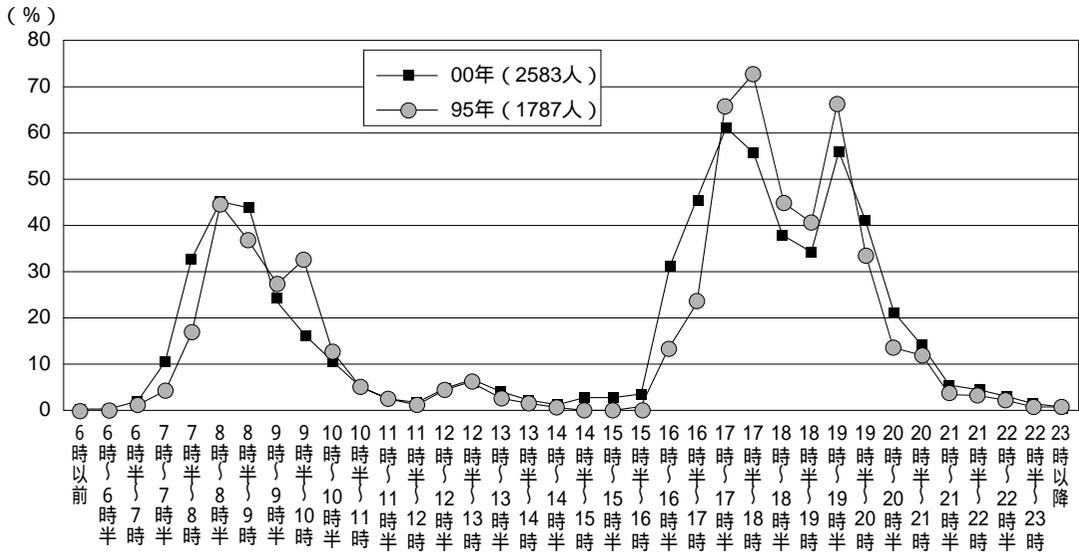
- 未就園児は、幼稚園・保育園児に比べて朝の視聴のピークが1時間ほど遅く(「8時半」~「9時」)、長い(2割以上が「7時半」~「10時」)。また、昼食時間に合わせてか再び小さな山ができる。夕方の視聴時間帯は、幼稚園・保育園児よりも早く、最も視聴率が高い。夜の視聴は他の子どもと比較してそれほど多くはないが、1割弱の子どもは22時頃まで視聴しており、幼稚園児よりも遅い。
- 幼稚園児は、登園に合わせて朝の視聴時間帯が未就園児より早く短い。また、夕方から夜にかけて視聴が集中する。しかし幼稚園の生活に合わせて視聴終了時間は最も早い。
- 保育園児の場合は、朝の時間帯は幼稚園児と同様である。夕方以降では、帰宅時間が遅いため、視聴時間の山が他の子どもより後ろにずれており、最も遅い時間までテレビを視聴していることがわかる。

表1-6 1日のテレビ視聴時間(95年との比較)

(平均時間)

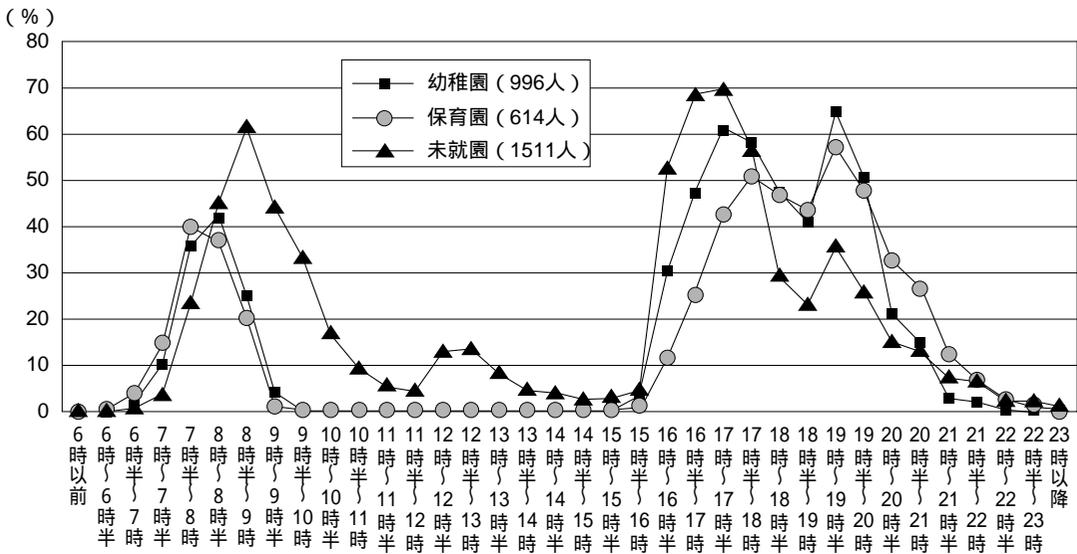
	95年	00年
1歳	3時間11分(125人)	3時間5分(290人)
2歳	3時間5分(441人)	3時間20分(734人)
3歳	3時間10分(302人)	3時間18分(393人)
4歳	2時間58分(497人)	2時間46分(348人)
5歳	2時間41分(216人)	2時間58分(365人)
6歳	2時間38分(187人)	2時間58分(378人)

図1 - 29 テレビ視聴時間帯（95年との比較）



*複数回答

図1 - 30 テレビ視聴時間帯×就園状況（全体）



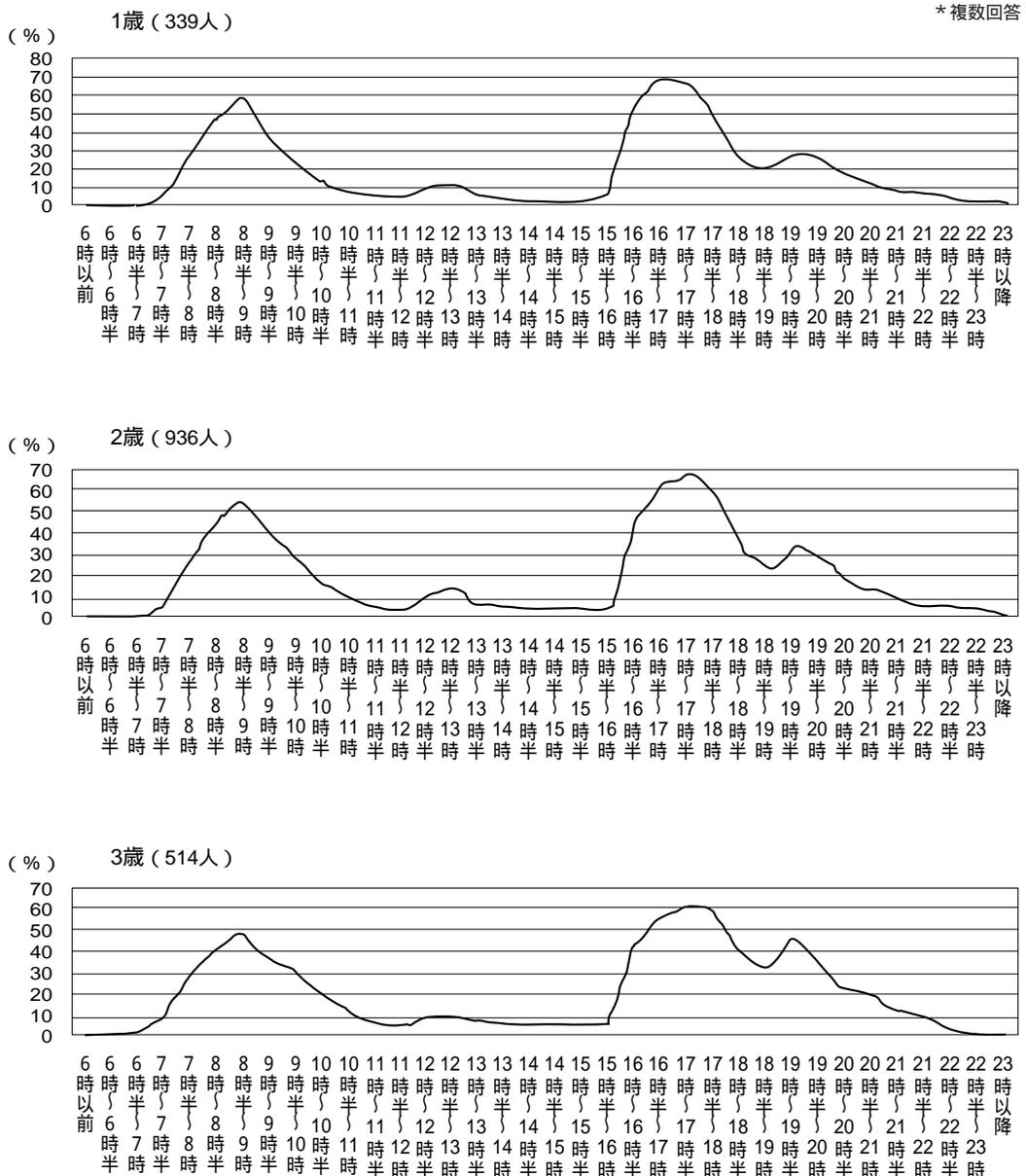
*複数回答

年齢別視聴時間帯 (図1 - 31)

図1 - 31は、今回調査の全体について1日の視聴時間帯を年齢別に比較したものである。これを見ると、1・2歳児では、朝と夕方に視聴が集中しており、夜の時間帯(19時

以降)は、比較的なだらかである(3割前後)。また、昼の時間帯にも小さな山ができており、昼食をとりながら視聴する様子が見えてくる。3歳児以上になると、朝と夕方に加えて、夜の時間帯に山ができる。年齢が上がるにつれて、この山は徐々に高くなり、夕食時間に

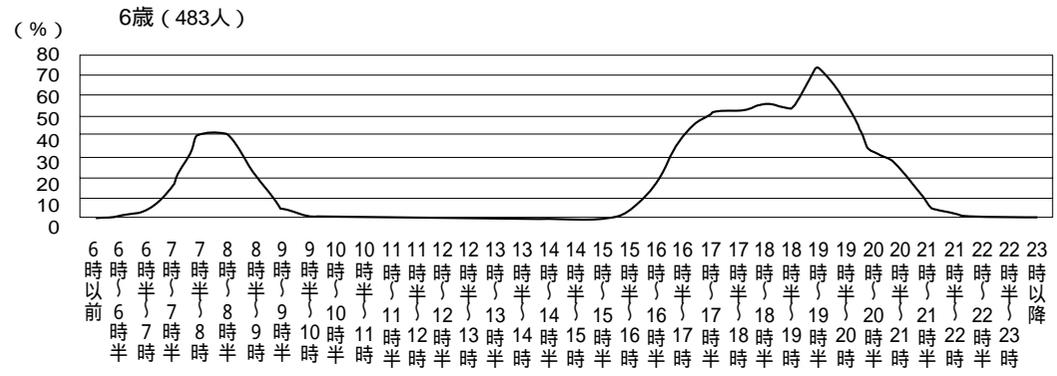
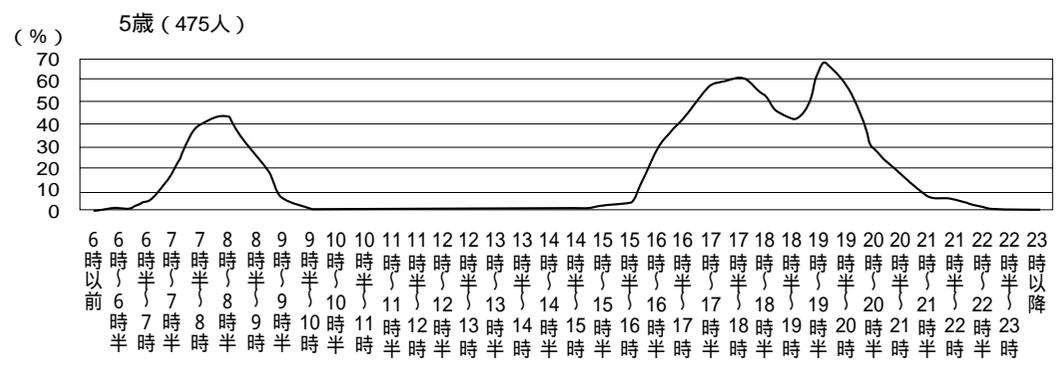
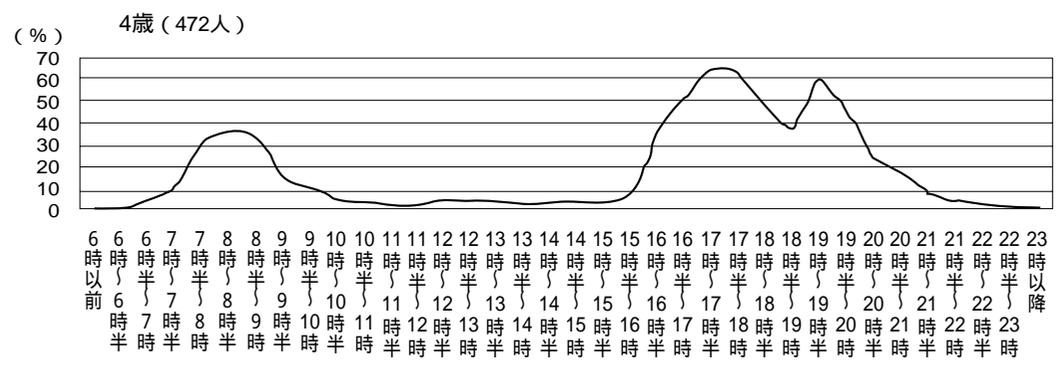
図1 - 31 テレビ視聴時間帯×年齢(全体)



*次ページへつづく

「ながら視聴」が増えていく様子が見られる。4歳児以上になると、幼稚園の生活スタイルに合わせてか昼の山がなくなり、朝も1~3歳児に比べて低くなる。一方、夕方から夜にかけての視聴に集中し、6歳児では夜の視聴率が7割と他の年齢に比べて最も高くなって

いる。しかし、終了時間は比較的早く、夜遅くまで視聴が続くのは、2・3歳児である。4歳児以上では就寝時間で見られたように、やはり幼稚園の生活スタイルに合わせてテレビの視聴時間も制限されていることがうかがえる。

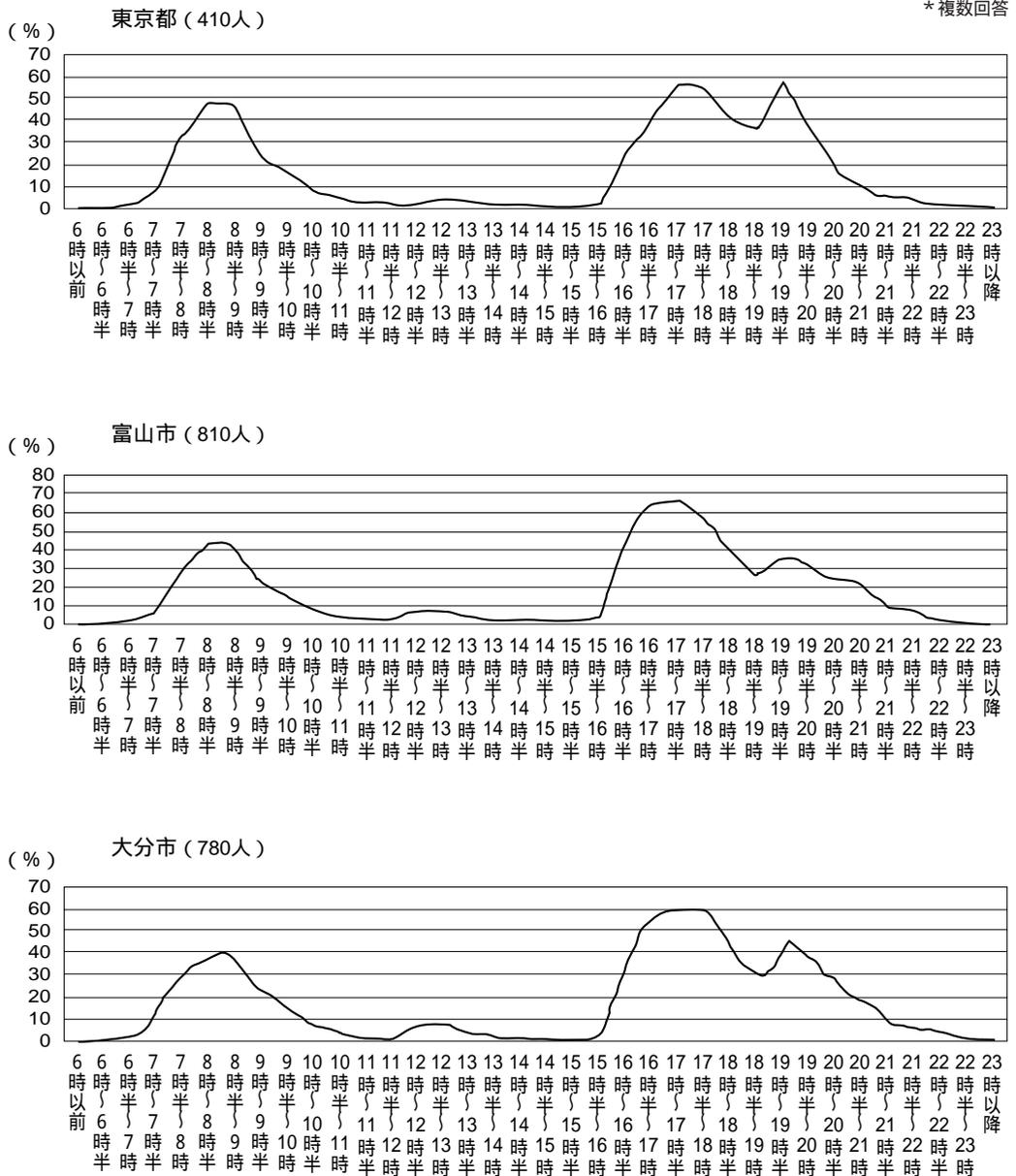


地域差 (図1 - 32)

図1 - 32は、今回調査の全体数値について1日のテレビ視聴時間帯を地域別（東京都・富山市・大分市）に見たものである。朝の視聴時間帯はどの地域も同様で、違いは見られ

ない。夕方から夜にかけての時間帯では、東京都、大分市では夕食時間をはさんで、夕方と夜に2つの山ができるが、富山市の場合、夜の山があまり見られず、比較的早くテレビ視聴を終了していることが特徴である。

図1 - 32 テレビ視聴時間帯×地域（全体）



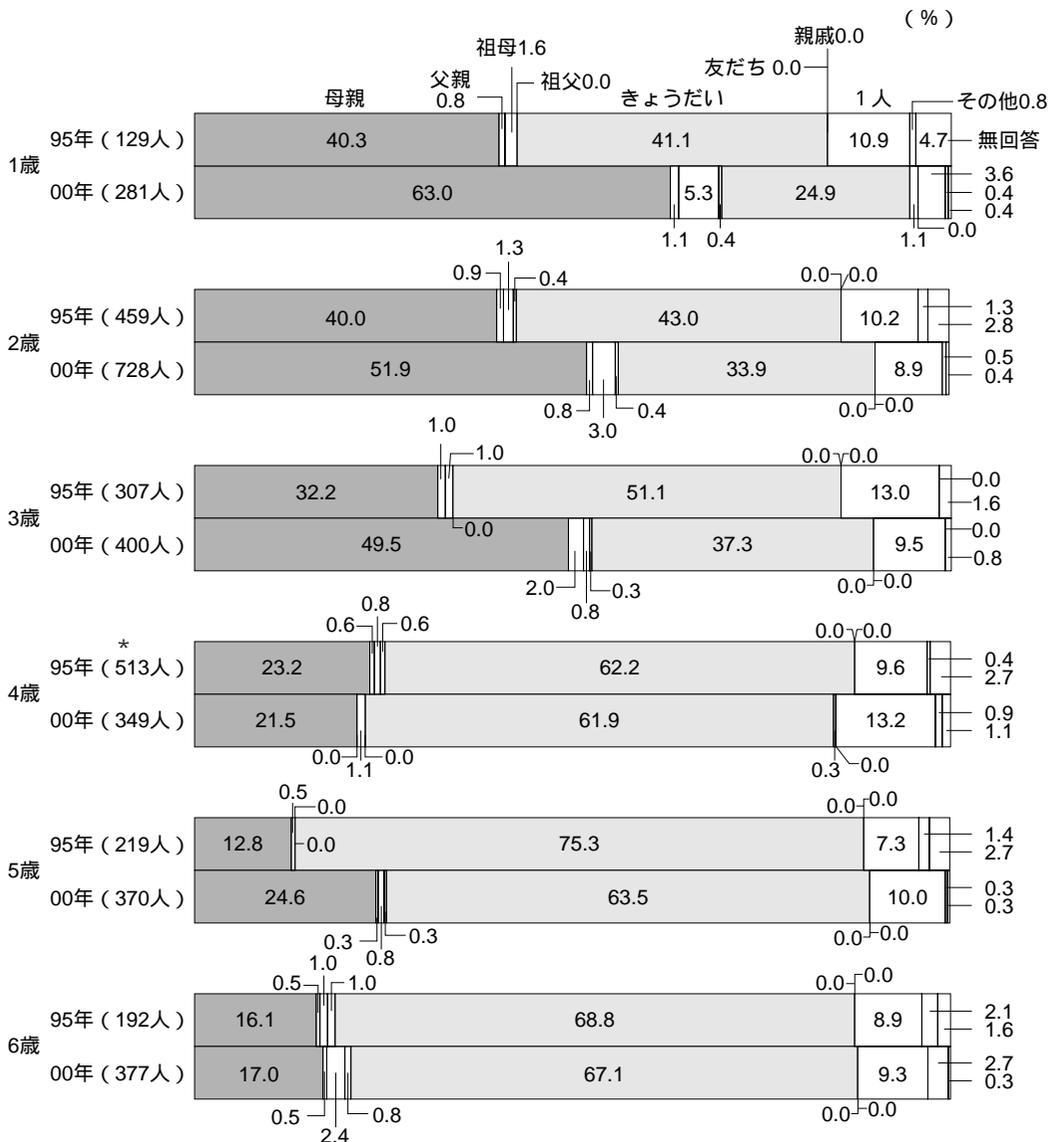
誰と一緒にテレビを見ているか

(図1 - 33)

図1 - 33は、主にテレビを一緒に見ている人を年齢別にたずねた結果の前回との比較である。これを見ると、ほとんどの年齢で母親と一緒に見る割合が増加している。一方、きょうだいと一緒に見る割合は減少の傾向にある。

今回の調査対象者は、きょうだいのいる割合が前回に比べて11.2%減少していることも影響していると考えられる。今回の数値を見ると、1～3歳児では母親と一緒にテレビを見る割合が高いが、4歳児以上になると、きょうだいと一緒に見る割合の方が多くなる。

図1 - 33 誰と一緒にテレビを見るか×年齢（95年との比較）



* 重みづけしたデータを用いているため、P.7 4歳児のサンプル数と異なる。

ビデオとのかかわり

ビデオ視聴の頻度・時間 (図1 - 34・35)

図1 - 34は、ビデオの視聴頻度についてたずねた結果の前回との比較である。前回と比較して、ビデオを「ほとんど毎日見ている」割合が5.6ポイント増加しており、ビデオの活用頻度は増えている。これを年齢別に前回と比較したのが図1 - 35である。これを見ると、1～3歳児の方が4～6歳児よりも「ほとんど毎日見ている」割合が高く、ビデオを頻繁に活用していることがわかる。また、前回と比較すると、すべての年齢で「ほとんど毎日見ている」割合は増加しているが、1・2歳児は約8～9ポイント、3歳児以上では、約4～6ポイントの増加となっており、1・2歳児のビデオ活用がより増えていることがわかる。

年齢別ビデオ視聴時間 (図1 - 36)

図1 - 36は、今回調査の全体数値について1日のビデオ視聴時間を年齢別に見たものである。全体的に見て、ビデオの視聴時間は30分～3時間以上と幅が広く、子どもによりばらつきがある。年齢別に見ると、4歳児以上の7割は視聴時間が1時間以内であるのに対し、3歳児以下では6割台にとどまり、1時間以上（主に1～3時間）の視聴が3割前後を占めている。視聴の頻度と同様に、時間の長さで見ても、より低年齢でビデオがよく活用されていることがうかがえる。

図1 - 34 ビデオ視聴頻度 (95年との比較)

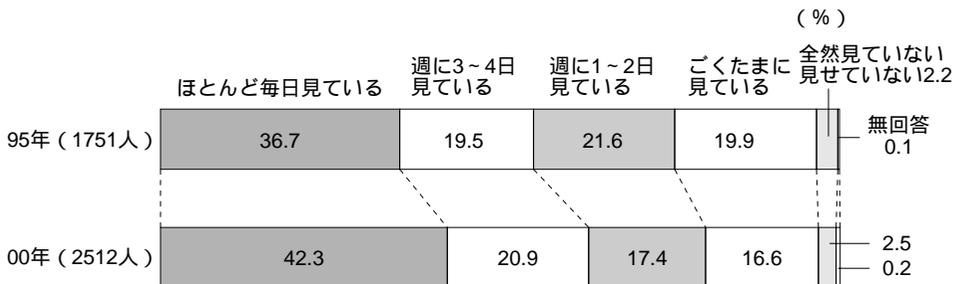
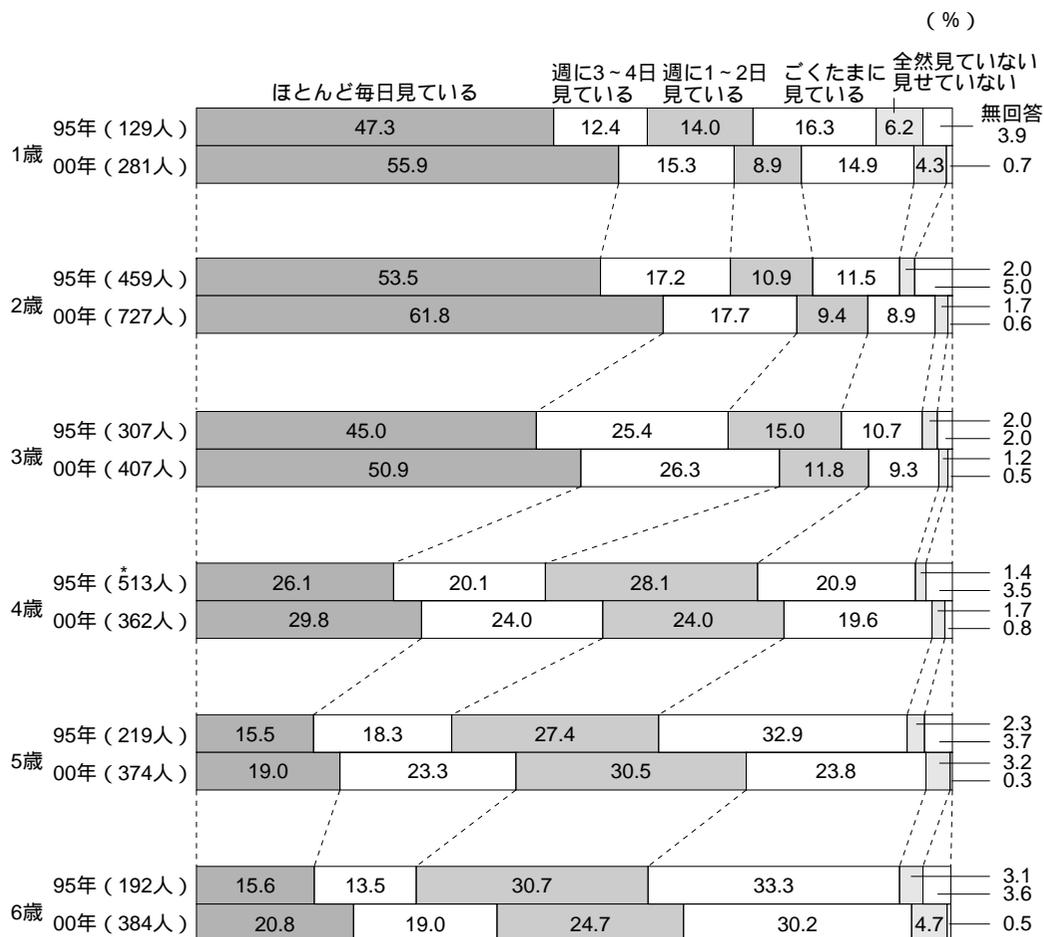
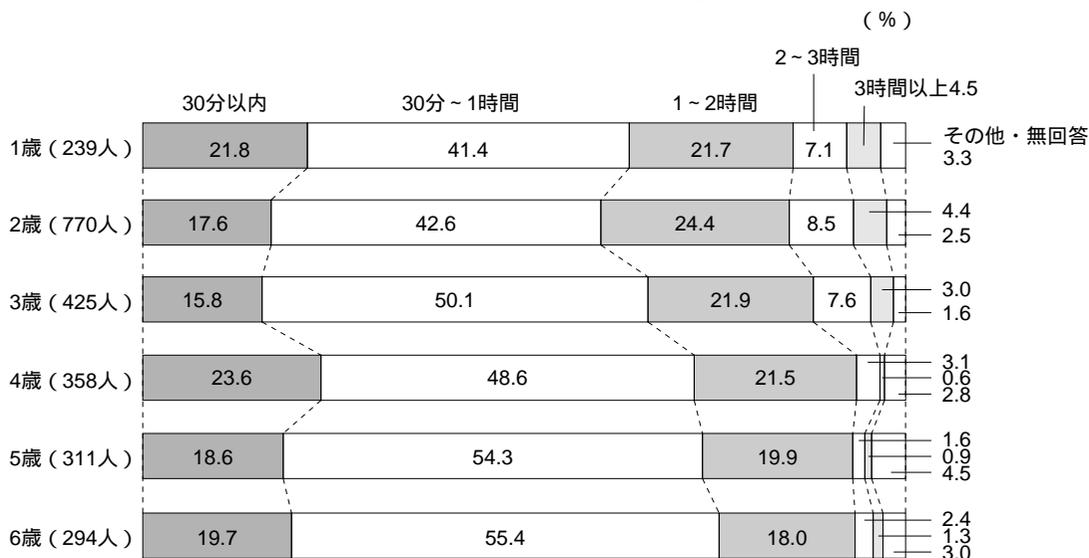


図1 - 35 ビデオ視聴頻度×年齢（95年との比較）



* 重みづけしたデータを用いているため、P.7 4歳児のサンプル数と異なる。

図1 - 36 ビデオ視聴時間×年齢（全体）



1日のビデオ視聴時間帯（図1 - 37・38）

では、1日の中でどのような時間帯にビデオを活用しているのだろうか。

図1 - 37は、1日のビデオ視聴時間帯を前回と比較したものである。テレビと同様、1日のうちで、視聴時間の山は朝と、夕方から夜の2つに分かれる。前回と比較すると、夕方から夜の視聴率が増加している。特にピークの「17時半～18時」では、視聴率が6.1ポイント増加している。

図1 - 38は、今回調査の全体数値について1日のビデオ視聴時間帯をテレビと比較したものである。テレビ視聴は限られた時間に集

中し、山が高い。それに対して、ビデオ視聴はなだらかな曲線を描く。朝のビデオ視聴の山は、テレビ視聴の山よりも少し後ろにずれ込んでいる。前述したように、テレビの視聴時間帯は、幼児（子ども）向け番組の放送時間の影響を受けていると思われるため、朝の幼児向け番組が終わってから、引き続きテレビの前でビデオを視聴する子どもの様子が推測できる。夜の場合、テレビ視聴とビデオ視聴の山はほとんど一致している。これは就寝時間があるため、時間をずらせず、テレビかビデオのどちらかを選択して視聴しているものと考えられる。

図1 - 37 ビデオ視聴時間帯（95年との比較）

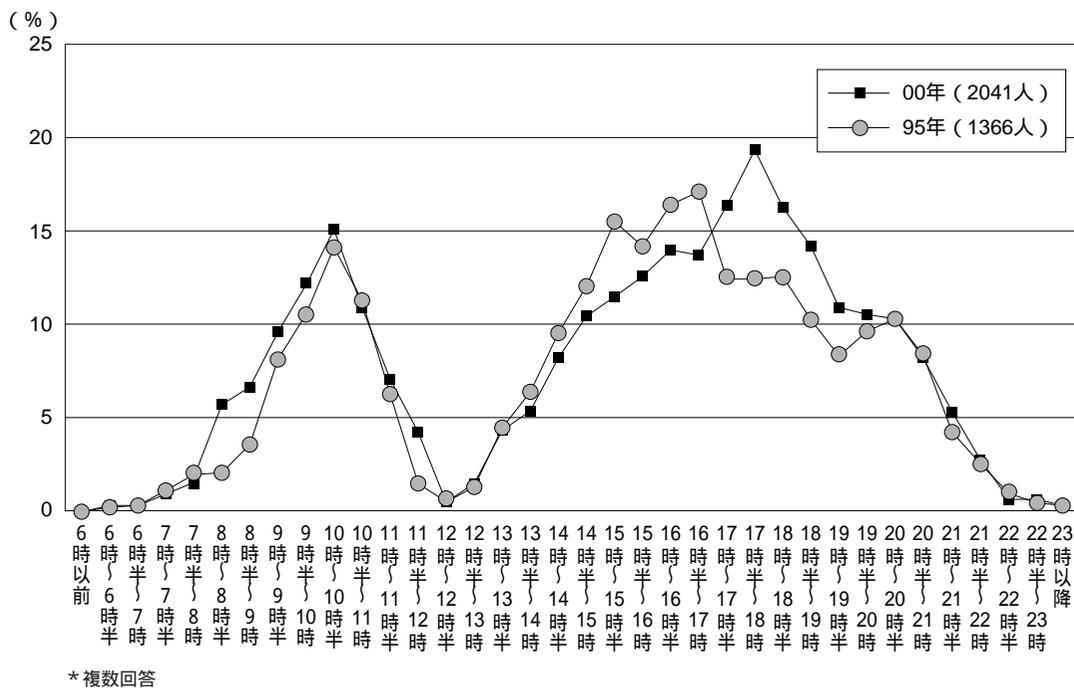
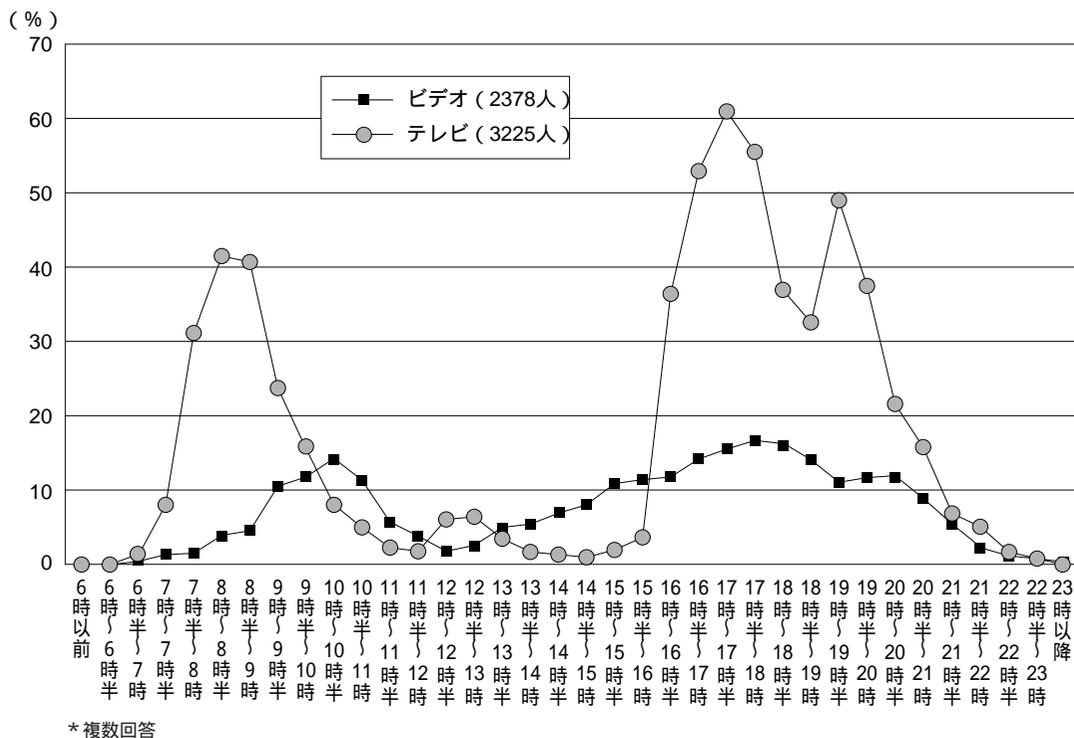


図1 - 38 テレビ・ビデオの視聴時間帯（全体）



就園状況・年齢別視聴時間帯 (図1-39)

次に、生活スタイルの違いによるテレビ・ビデオ視聴の差を見てみたい。図1-39は、今回の数値について子どもを年齢・就園状況で4分類し、1日の視聴時間帯を見たものである(年齢区分の3歳11か月は、調査時点で3年保育の幼稚園に通園している年齢である)。

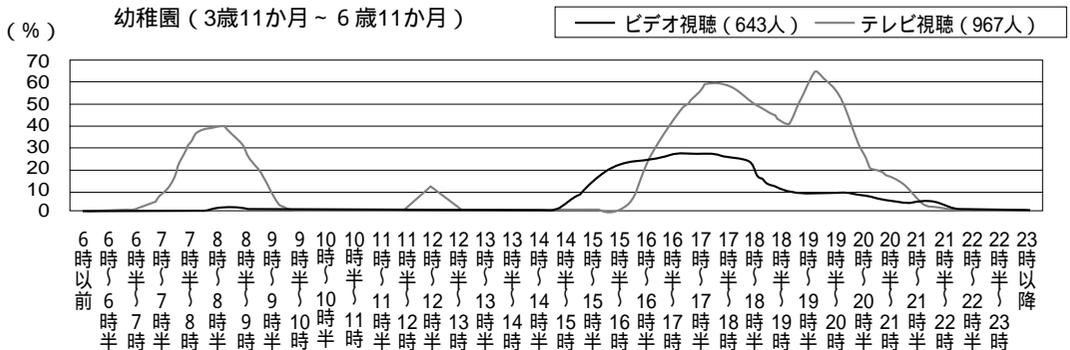
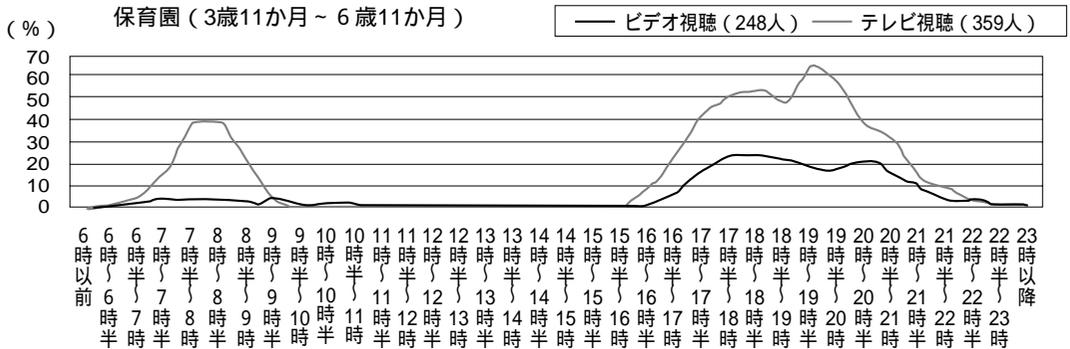
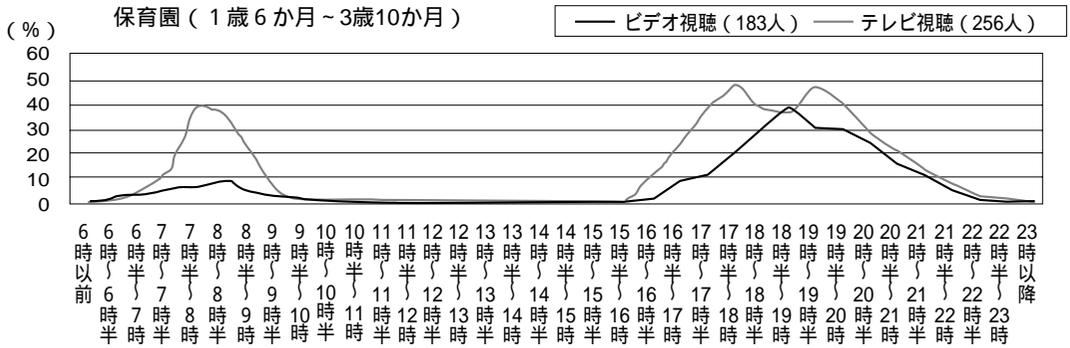
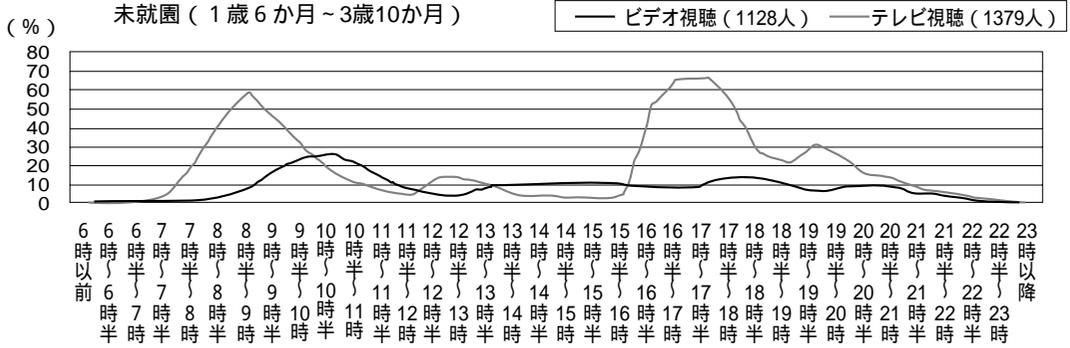
- ・年少未就園児(1歳6か月～3歳10か月)の場合、ビデオの視聴率は最大でも30%以下で低いが、ほぼ1日中とぎれることなく視聴が続く。朝の山は、前述したようにテレビ視聴の山より少し後ろにずれていることから、自宅にいる年少未就園児の約2～3割は、朝7時すぎから夜11時くらいまでテレビ・ビデオを見て過ごす様子が見える。テレビ視聴は限られた時間に集中するが、視聴率は最高で7割弱である。
- ・年少保育園児(1歳6か月～3歳10か月)の場合、ビデオの視聴は夕方から夜にかけてが多い。特に「18時半～19時」の時間帯に視聴率が約4割となり、他の子どもと比べて最も高い数値となっている。この時間帯は、子どもの夕食時間のピークと重なっ

ていることから、好きなビデオを見ながら夕食をとる子どもが多いと思われる。

- ・年長保育園児(3歳11か月～6歳11か月)の場合は、全体の傾向が3歳10か月以下の年少保育園児とほぼ似ているが、よりテレビの視聴率が高くなる。その分、ビデオの視聴率が下がり、山はなだらかになる。テレビ視聴のピークは「19時～19時半」で、その後徐々に下がり、21時半頃に1割を切るが、23時までわずかながら視聴が続く。
- ・幼稚園児(3歳11か月～6歳11か月)の場合は、夕方のビデオ視聴の山が15時頃(約2割)から始まる。ピークは「17時～17時半」(約3割弱)で、その後、18時半頃には1割程度に落ち着く。幼稚園児は保育園児と比べて帰宅時間が比較的早いことから、ビデオ視聴も早い時間から始まり、19時以降はテレビ視聴に切りかえる様子が見える。視聴終了時間(テレビ・ビデオともに)は21時頃に1割を切る。他の子どもと比べて最も終了時間が早い。これは、前述した就寝時間と傾向が一致しており、幼稚園児の生活スタイルの特徴であると思われる。

図1-39 テレビ・ビデオの視聴時間帯×就園状況・年齢（全体）

*複数回答



誰とビデオを見ているか(図1-40)

図1-40は、ビデオを主に一緒に見る人についてたずねた結果の年齢別(1・3・6歳児)前回との比較である。図は省略したが、全体値を見ると、母親(今回31.6% > 前回22.0%)が増加し、きょうだい(38.8% < 44.6%)、1人(24.7% < 28.2%)が減少している。

年齢別に見ると、前回と比べて1歳児では、母親と見る割合が18.6ポイント増加し、きょうだいと見る割合が14.1ポイント減少しており、約半数の子どもが母親と一緒にビデオを見ている。3歳児では、母親と一緒に見る割合が8.1ポイント増加し、きょうだいが9.3ポイント減少している。母親・きょうだい・1人で見る割合がどれも約3割程度と同数で並んでおり、3歳児頃から徐々に母親と一緒に見るパターンから離れる傾向がうかがえる。

6歳児では、母親と一緒に見る割合が5.3ポイント増加し、1人が5.0ポイント減少している。6歳児になると、きょうだいと一緒に見る割合が6割と圧倒的に多くなる。

見るビデオの種類(図1-41)

子どものビデオ活用のうち、市販と録画で

はどちらが多く活用されているのだろうか。両者を対比させる形で、それぞれの活用状況をたずねた。図1-41は、市販・録画のどちらを見ているかをたずねた結果の年齢別の前回との比較である。

全体の傾向を見ると、市販のビデオ活用は1歳児が最も多く、年齢が上がるとともに録画ビデオの活用が増加し、5歳児以上でその割合は逆転する。

前回と比較すると、すべての年齢において市販ビデオの視聴率が増加している。最も増加したのは6歳児で16.3ポイント、最も少ないのは5歳児で7.2ポイントの差があった。

ビデオ操作(図1-42)

子どものビデオ操作について年齢・男女別にたずねた結果が図1-42である。ビデオの操作が「1人でできる」子どもは、3歳児で約6割、6歳児では約8割となる。男女別に見ると、すべての年齢で女子より男子の方が割合が多い。2歳児男子の場合、4割強が1人でビデオ操作ができるという結果になっている。

前回と比較して、ビデオ操作の割合に大きな変化は見られなかった。

図1-40 誰と一緒にビデオを見るか×年齢(95年との比較)

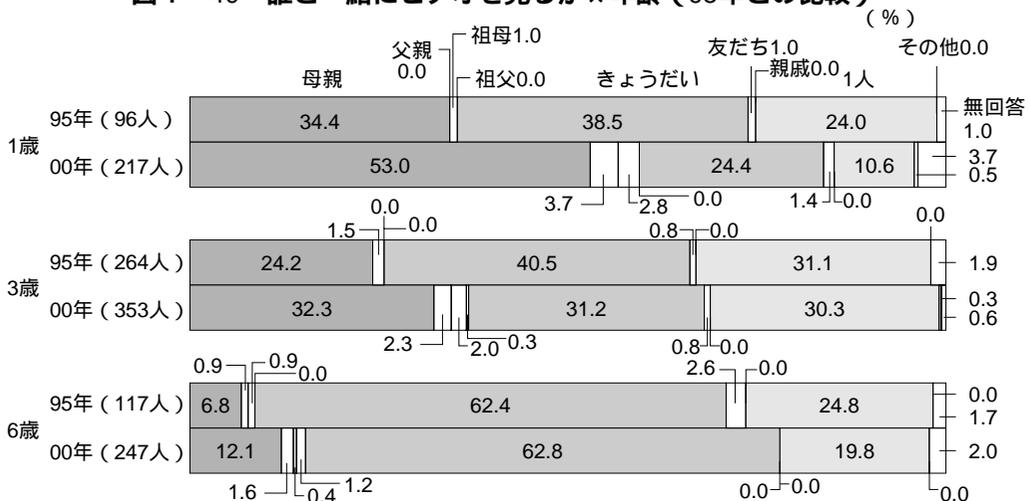


図1 - 41 市販と録画の活用状況×年齢（95年との比較）（％）

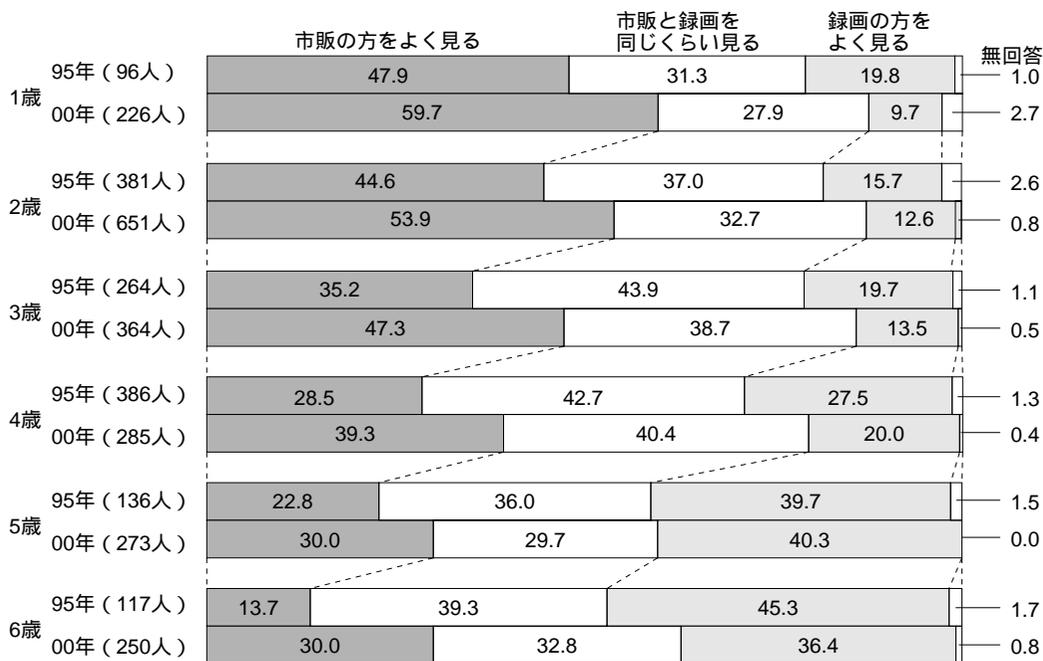
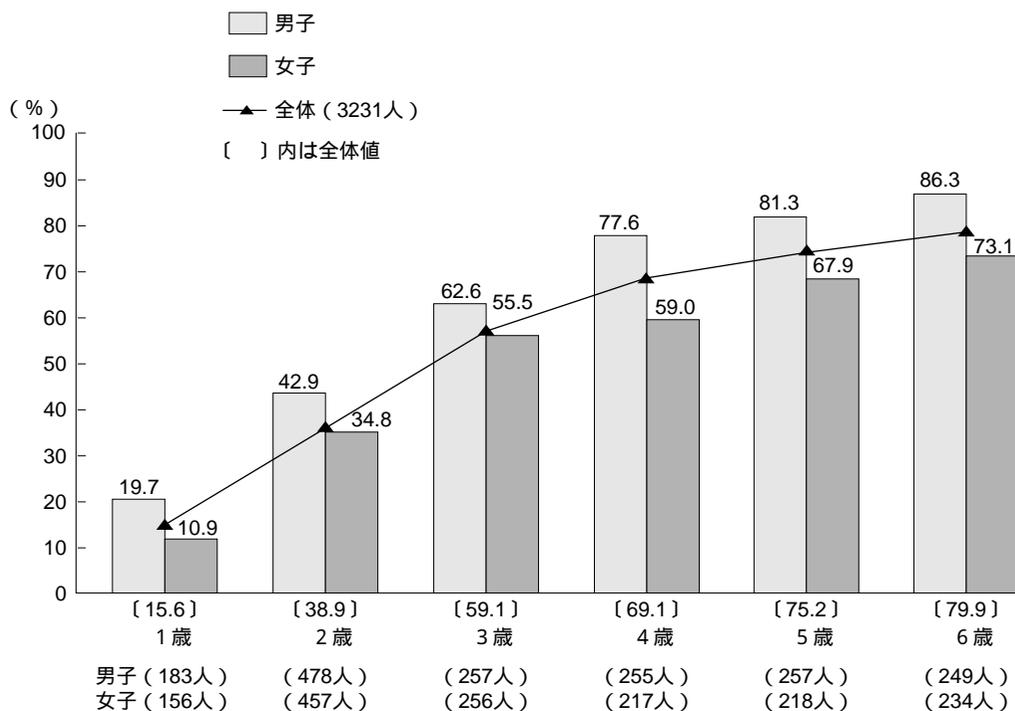


図1 - 42 ビデオの操作（「再生」を自分1人でできる）×年齢・性（全体）



家にあるもの

子どもたちはどのようなものに囲まれ、それらにどの程度接して生活しているのだろうか。家庭環境として、主に子ども向け読み物（ペーパーメディア）と電子メディアを中心とした家庭にあるもの11点を取りあげ、それらについての所有率、使用頻度、一緒に使う人についてたずねた。

前回との比較（図1 - 43）

まず、家にあるものについて前回と比較した結果が図1 - 43である。前回と比較して増加したものは、「パソコン」（30.3ポイント）、「CD」（10.3ポイント）であった。逆に減少したものは、「ワーク」（17.7ポイント）、「学習機器」（13.3ポイント）、「ワープロ」（6.6ポイント）、「図鑑」（6.0ポイント）だった。

図は省略したが、子どもの年齢が上がるにしたがって所有率が上がるものは「ワーク」「図鑑」「マンガ」「テレビゲーム」などであり、「絵本」「雑誌」「テープレコーダー」「C

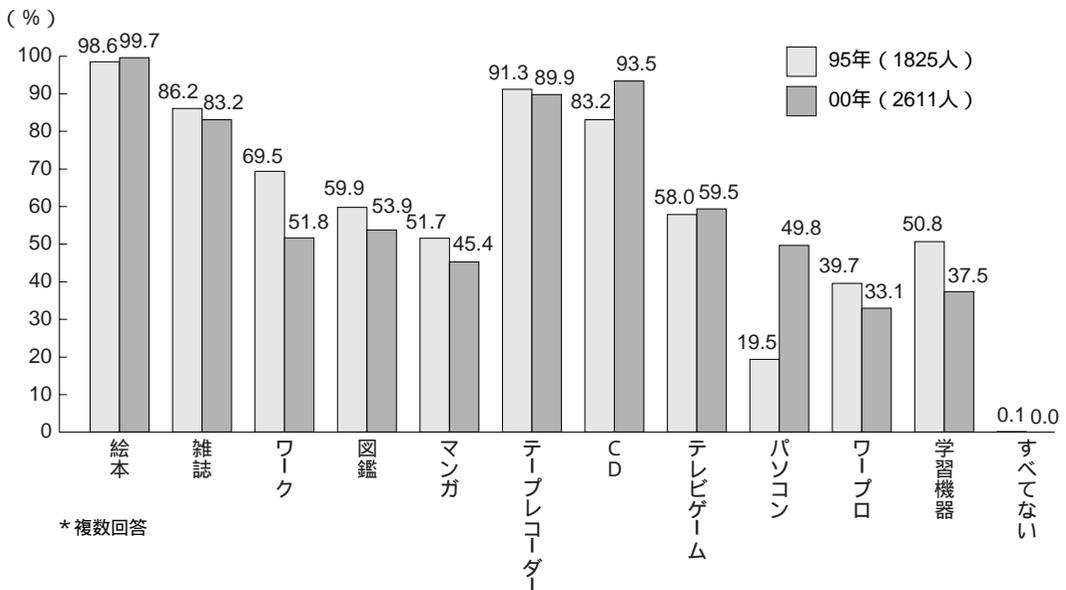
D」などは年齢に関係なく所有率が8割を超えて一定している。

年齢別前回との比較（図1 - 44）

これら11点のうち、「ワーク」「図鑑」「パソコン」を取りあげ、年齢別に前回と比較したものが図1 - 44である。

- ・「ワーク」の場合、前回と比較して、すべての年齢で減少傾向にあり、その差は年齢が低いほど大きい（1歳児で15.4ポイント差に対し6歳児で7.8ポイント）。ワークの所有率は、1・2歳児では約2～3割であるが、3歳児で5割、4歳児以上で7割を超え、年齢が上がることもともに関心が高くなると思われる。
- ・「図鑑」も「ワーク」と同様の傾向にあり、前回と比較して、ほとんどの年齢で所有率は減少している。しかし「ワーク」とは逆に、年齢が上がるにつれて差が大きくなる（1歳児で5.7ポイント差に対して、6歳児で11.1ポイント差）。

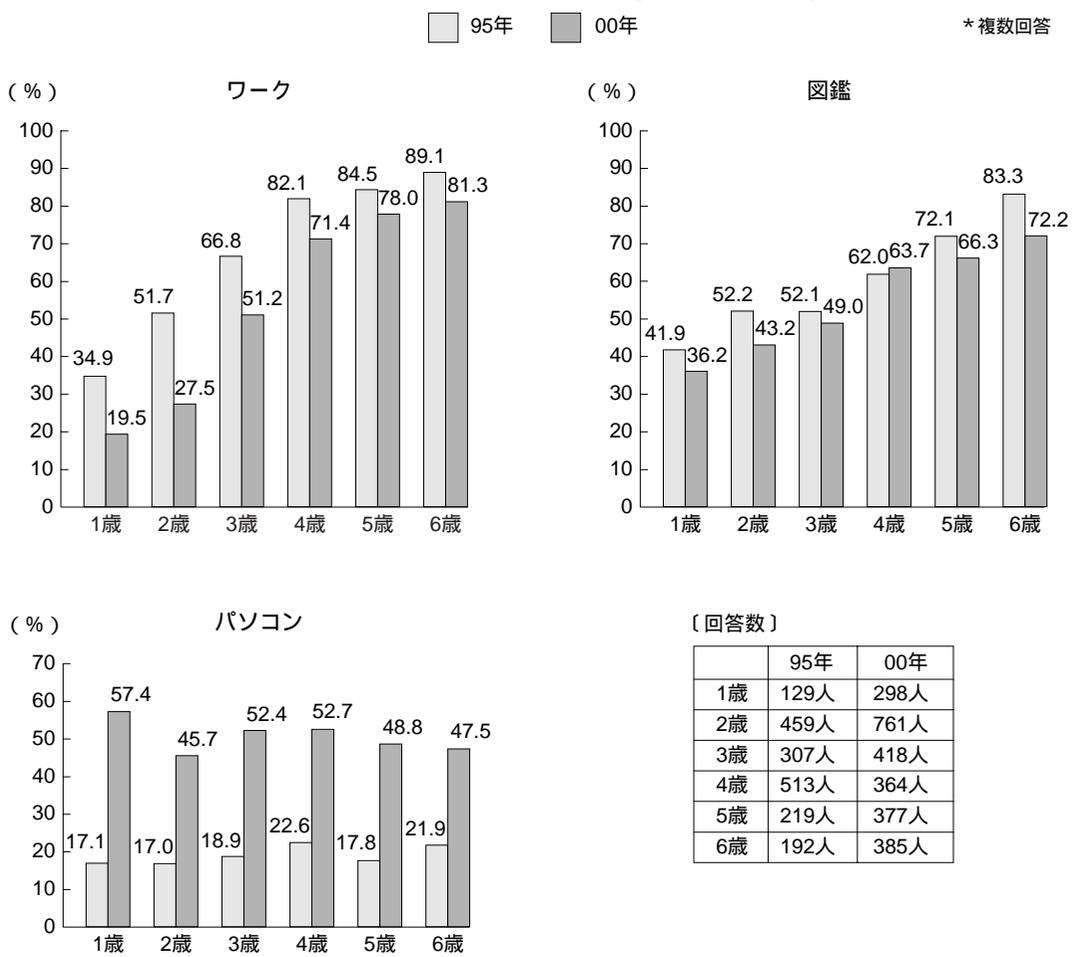
図1 - 43 家にあるもの（95年との比較）



・「パソコン」の場合は、前回と比較して、すべての年齢で増加している。最も差の大きいのは、1歳児で40.3ポイントの増加、最も差の小さいのは6歳児で25.6ポイント

の増加である。「パソコン」の所有率は、子どもの年齢に関係なく、ほぼ45～57%前後である。むしろ父親の学歴との相関性の方が高い。

図1 - 44 家にあるもの×年齢（95年との比較）



〔回答数〕

	95年	00年
1歳	129人	298人
2歳	459人	761人
3歳	307人	418人
4歳	513人	364人
5歳	219人	377人
6歳	192人	385人

使う頻度（表1 - 7、図1 - 45）

表1 - 7は、使用頻度をたずねた今回の全体数値である。「絵本」「雑誌」は、「ほとんど毎日」接している割合が高い（絵本55.4%、雑誌24.7%）。その他のものでは、「ごくたまに」接している割合が2割以上であるものが多く、「絵本」「雑誌」を除くと、それほど頻繁には使用されていないようである。

また、使用頻度を前回と比較したのが図

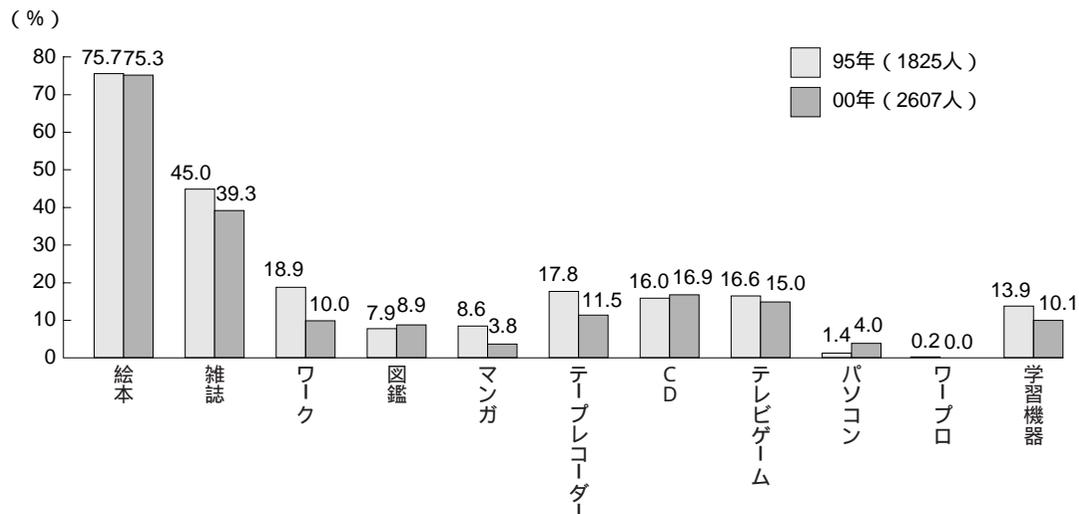
1 - 45である。「ほとんど毎日」と「週に3～4日」接する割合を合わせたものであるが、前回と比較して増加したものの（5ポイント以上、以下同）は、1つも見られなかった。逆に減少したものは、「ワーク」（8.9ポイント）、「テープレコーダー」（6.3ポイント）、「雑誌」（5.7ポイント）であった。「ワーク」については、所有率でも10ポイント以上減少していることも影響していると考えられる。

表1 - 7 使う頻度（全体）

	ほとんど毎日	週に3～4日	週に1～2日	ごくたまに	全然さわらない 使わない	使わせない	家がない
絵本（3268人）	55.4	18.8	11.9	12.7	0.6	0.0	0.2
雑誌（3265人）	24.7	14.7	14.6	26.2	2.5	0.6	10.5
ワーク（3264人）	3.4	5.7	12.4	25.7	5.3	1.2	33.3
図鑑（3263人）	4.0	4.8	8.1	30.2	7.3	0.6	32.9
マンガ（3265人）	2.2	2.0	3.5	18.1	18.6	6.2	34.9
テープレコーダー（3265人）	6.0	5.8	8.6	31.3	19.8	14.9	6.9
CD（3265人）	7.8	7.5	11.6	32.5	15.8	15.9	4.0
テレビゲーム（3266人）	8.9	5.5	6.0	15.8	9.4	13.3	29.9
パソコン（3265人）	1.2	2.3	4.8	14.2	6.1	18.1	38.4
ワープロ（3261人）	0.1	0.1	0.4	6.3	9.2	19.7	45.4
学習機器（3268人）	4.2	5.0	6.3	15.9	3.4	1.1	49.0

* —— は2割を超えるもの

図1 - 45 使う頻度（ほとんど毎日+週に3～4日）（95年との比較）



年齢・就園状況別使用頻度(図1-46)

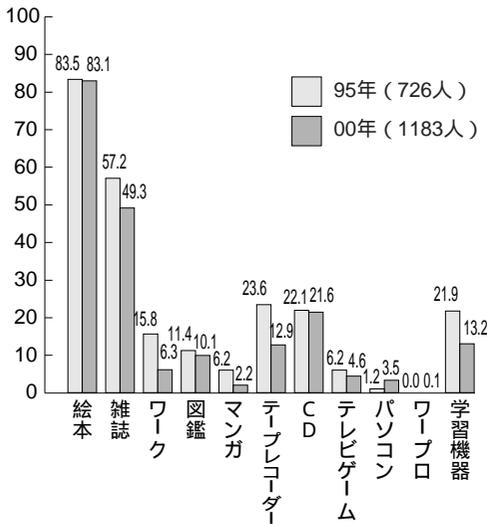
図1-46は、年齢・就園状況別に使用頻度をたずねた結果の前回との比較である。

・まず、1歳6か月～3歳10か月の年少未就園児を見ると、前回と比較して使用頻度の5ポイント以上増加したものは見られなかった。減少しているもの(5ポイント以上、以下同)は、「テープレコーダー」(10.7ポイント)、「ワーク」(9.5ポイント)、「学習

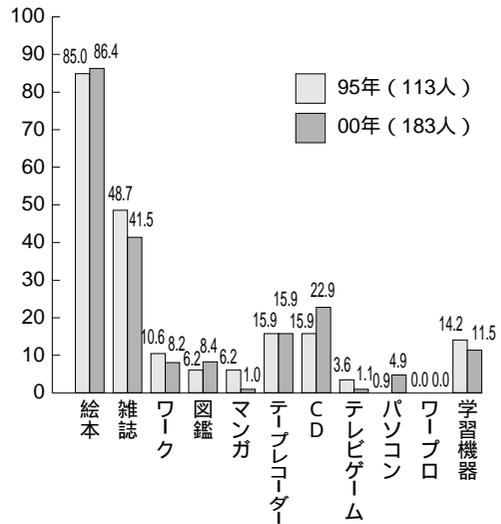
機器」(8.7ポイント)、「雑誌」(7.9ポイント)であった。使用頻度の高かった順は(今回の数値より)「絵本」「雑誌」「CD」「学習機器」「テープレコーダー」であった。
 ・1歳6か月～3歳10か月の年少保育園児の場合、5ポイント以上増加したものは「CD」(7.0ポイント)のみであった。逆に、減少したのは「雑誌」(7.2ポイント)、「マンガ」(5.2ポイント)であった。使用頻度の高かったもの(今回)は、年少未就園児

図1-46 使用頻度(ほとんど毎日+週に3~4日)×就園状況(95年との比較)

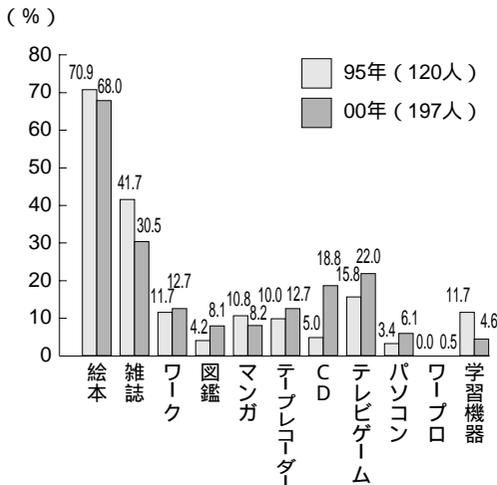
(%) 未就園(1歳6か月～3歳10か月)



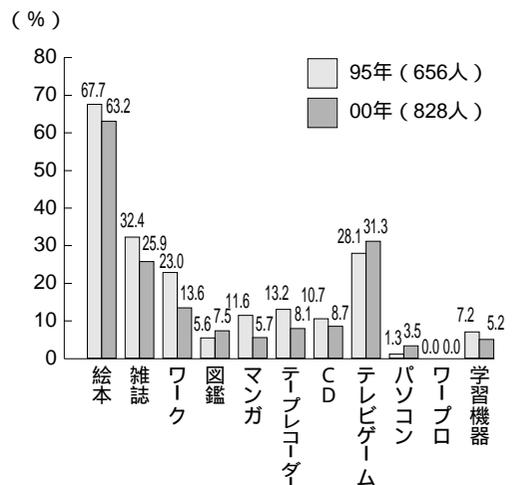
(%) 保育園(1歳6か月～3歳10か月)



保育園(3歳11か月～6歳11か月)



幼稚園(3歳11か月～6歳11か月)



とほとんど同様である。

- ・ 3歳11か月～6歳11か月の年長保育園児の場合、前回と比較して使用頻度が5ポイント以上増加したものは、「CD」(13.8ポイント)「テレビゲーム」(6.2ポイント)であった。逆に減少したのは、「雑誌」(11.2ポイント)「学習機器」(7.1ポイント)であった。使用頻度の高かった順(今回は、「絵本」「雑誌」「テレビゲーム」「CD」であった。年齢が上がると「テレビゲーム」の使用率が増加する傾向にある。
- ・ 3歳11か月～6歳11か月の幼稚園児の場合、前回と比較して使用頻度が5ポイント以上増加したものはなかった。減少したものは、「ワーク」(9.4ポイント)「雑誌」(6.5ポイント)「マンガ」(5.9ポイント)「テーブルコーダー」(5.1ポイント)であった。使用頻度が高かったもの(今回は、年長保育園児とほとんど変わらないが、テレビゲームの使用率が年長保育園児に比べて9.3ポイント高くなっている(31.3% > 22.0%)

家にあるものの使用頻度については、就園状況よりも、年齢による差が大きいようである。

誰と使うか(図1-47)

子どもは、家にあるものを誰と一緒に使っているのだろうか。主に一緒に使っている人について前回と比較したのが図1-47である(家にあるもの11点のうち、ペーパーメディアから2点、電子メディアから2点を取り上げた)。なお、ここで扱う数値は「家がない」を除いて分析しているため、基礎集計表の数値とは異なっていることをお断りしておく。

- ・ 「絵本」の場合、前回と比較して5ポイント以上差の開いたものはなく、母親と一緒に使う割合が7割以上と、圧倒的に多かった。
- ・ 「雑誌」の場合は、前回と比較して、母親が7.1ポイント増加している。母親と一緒に

に使用する割合は5割程度で、それ以外には1人で使う(27.3%)、きょうだいと一緒に使う(14.3%)割合が高い。

- ・ 「テーブルコーダー」の場合は、前回と比較して、母親と一緒に使う割合が12.1ポイント増加し、6割強が母親と一緒に使っている。「雑誌」と同様に、母親以外ではきょうだいで使う、1人で使うケースも1割見られる。
- ・ 「テレビゲーム」の場合、前回と比較して、父親と一緒に使う割合が12.2ポイント増加している。「テレビゲーム」は、きょうだいと一緒に使う割合が46.0%と最も高く、その他では母親、1人で、父親と一緒に使う割合がそれぞれ1～2割である。

年齢別一緒に使う人(図1-48)

さらに今回の全体の結果を「雑誌」と「テレビゲーム」について年齢別に見たものが図1-48である(「家がない」を除いた数値)。

- ・ 「雑誌」の場合、1歳児では66.5%が母親と一緒に使っているが、徐々に母親の割合が減少し、5歳児で1人で使う割合とほぼ並ぶ。6歳児になると、母親と一緒に使う割合は2割になる。一方、1人で使う割合は、1歳児で1割強であるが、年齢が上がるとともに上昇し、6歳で約5割弱が1人で使用するようになる。その他には、きょうだいと一緒に使う割合が5・6歳児で2割強見られる。
- ・ 「テレビゲーム」の場合、きょうだいと一緒に使う割合が最も高い。1～6歳児まですべての年齢において、45～54%程度である。出生順位別では、第2子以降できょうだいと一緒に使う割合が高くなっている。その他では、父親と一緒に使う割合が1～3歳児で3割程度と、他のものに比較して高い数値である。4～6歳児になると、きょうだい、父親の割合が若干減り、1人で使う、友だちと使う割合が年齢が上がるとともに高くなる。

図1 - 47 誰と使うか(「家がない」を除いた数値)(95年との比較)

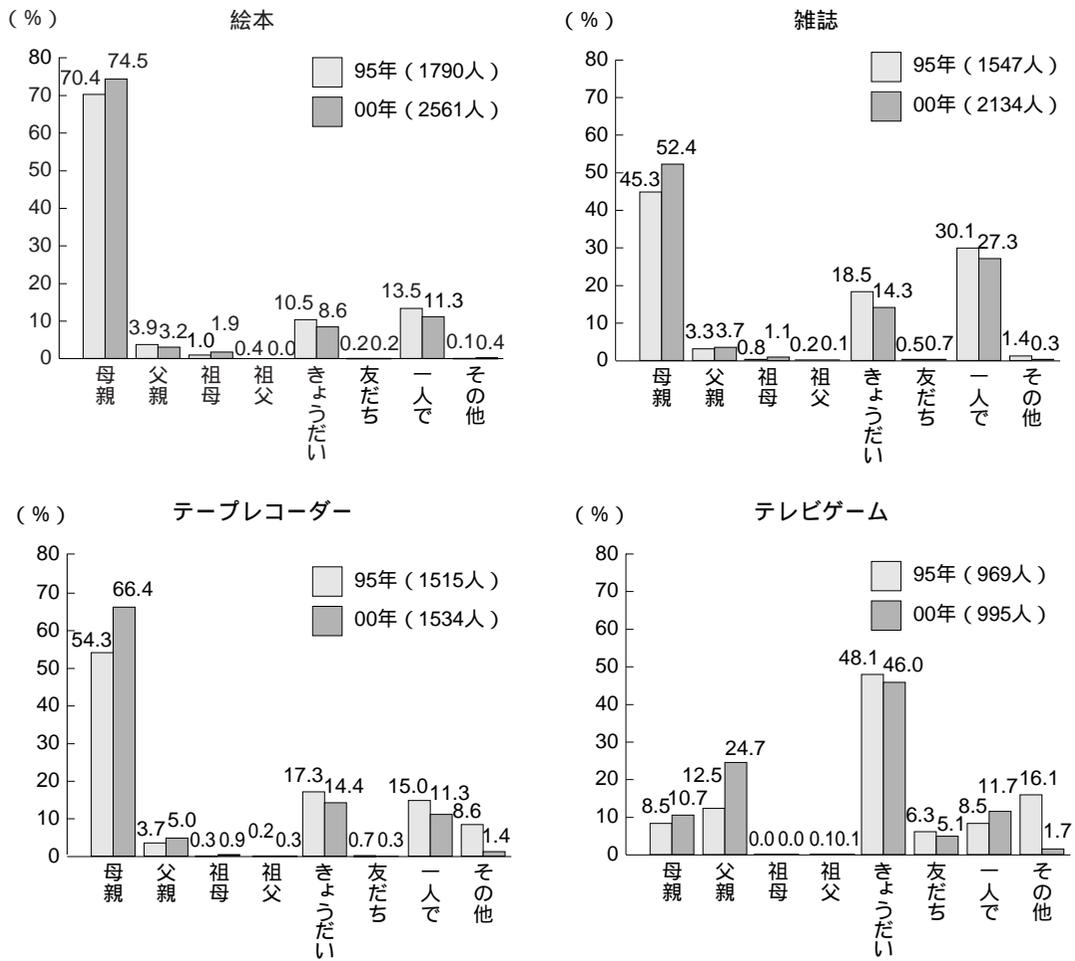


図1 - 48 一緒に使う人(「家がない」を除いた数値)×年齢(全体)

